

今は昔、

世界の果てに、

小さなたね屋が

あつたとき。



# 息の跡

trace of breath

監督・撮影・編集：小森はるか

編集：秦岳志 整音：川上拓也 特別協力：瀬尾夏美

プロデューサー：長倉徳生、秦岳志

助成：文化庁文化芸術振興費補助金

製作：カサマフィルム＋小森はるか 配給：東風

2016年／93分／HD／16：9／日本／ドキュメンタリー

[www.ikinoato.com](http://www.ikinoato.com)

陸前高田から届いた、忘れられない風景の記録。映像作家・小森はるか、待望の劇場長編デビュー作。

細いホースのさきからちよろちよろと水が流れ、見えてはいないポンプの音が生がそれにかぶさるとき、これが音響の映画だと人は忽然と理解する。不穏な津波の音に代わって、即席の井戸がいつかの生を謳歌するが、最後には解体されるしかない。あたかも、それが息の跡だということのように。傑作である。

**蓮實重彦** (映画評論家)

真の怪物“大津波”襲来後の、荒涼とした大地にぼつんと残された男。「かつて普通の日本のたね屋だった」彼の生の形が、スクリーンに立ち上がる。大ヒット怪獣映画やアニメーション以上に心ざわぎ、揺さぶられるのは、これが実在の人物の本物の戦いだからだ。

**澤田康彦** (『暮しの手帖』編集長)

長い時を超えて今に伝わるどんな伝説や神話も、実際に机の上で文字に刻まれた時は、きっとこんなふうだったに違いない。それをみごと捉えた監督の「息の跡」が、最後は叫びとなって天に立ち昇る。

**榎木野衣** (美術批評家、多摩美術大学教授)

## ひとりのたね屋が綴った、彼の町の物語 いまは、もういない誰かへ、まだいない誰かのために

岩手県陸前高田市。荒涼とした大地に、ぼつんとたたずむ一軒の種苗店「佐藤たね屋」。津波で自宅兼店舗を流された佐藤貞一さんは、その跡地に自力でプレハブを建て、営業を再開した。なにやらあやしげな手描きの看板に、瓦礫でつくった苗木のカート、山の落ち葉や鶏糞をまぜた苗床の土。水は、手掘りした井戸からポンプで汲みあげる。

いっぽうで佐藤さんは、みずからの体験を独習した英語で綴り、自费出版していた。タイトルは「The Seed of Hope in the Heart」。その一節を朗々と読みあげる佐藤さんの声は、まるで壮大なファンタジー映画の語り部のように響く。さらに中国語やスペイン語での執筆にも挑戦する姿は、ロビンソン・クルーソーのようにも、ドン・キホーテのようにもみえる。彼は、なぜ不自由な外国語で書き続けるのか？ そこには何が書かれているのだろうか？



fb.com/ikinoato @ikinoato www.ikinoato.com

## ふわりとした、けれど、確かなまなざし まるで、生まれたばかりの映画のように

監督は、映像作家の小森はるか(『the place named』、『波のした、土のうえ』\* 瀬尾夏美との共同制作)。震災のあと、画家で作家の瀬尾夏美とともに東京をはなれ、陸前高田で暮らしはじめた彼女は、刻一刻とかわる町の風景と、そこで出会った人びとの営みを記録してきた。失ったものと残されたもの。かつてあったものと、これから消えてゆくもの。記憶と記録のあわい。そのかすかな痕跡とぬくもりを彼女はうつしだしていく。あの大きな出来事のあとで、映画に何ができたのか。そのひとつの答えがここにある。

## 2/18(土)より、ロードショー

全国共通特別鑑賞券¥1,300(税込) 発売中 当日一般¥1,700/大幕シアター¥1,200  
高中生¥1,000/小¥700(全て税込)

★2/18(土)15時&19時:小森はるか監督初日舞台挨拶

トーク

2/24(金)19時回:瀬尾夏美さん(画家・作家)×監督  
※ほか劇場イベント多数開催予定 最新情報は映画公式WEBサイトにて

JR総武線・都営地下鉄大江戸線 東中野駅より徒歩1分 <b>ポレポレ東中野</b> 03(3371)0088 www.mmjp.or.jp/pole2/		地下鉄 大江戸線 A10出口 ポレポレ 池袋地下 JR東中野駅 中野 新宿
上映時間 15:00 19:00 ※全国UDcast対応上映(但し音声ガイドのみ)		
上映決定	『波のした、土のうえ』 小森はるか+瀬尾夏美 2/18(土)→3/10(金)17:20	『the place named』 小森はるか 2/18(土)→24(金)21:10